



那賀川流域の縄文時代から 弥生時代の遺跡

高島 芳弘 (友の会会員)

はじめに

これまで徳島県南部の那賀川流域は、吉野川流域に比べて遺跡の数は少なく、発掘調査の件数もあまり多くありませんでした。

しかし近年は、古くから続けられてきた古屋岩陰遺跡（那賀郡那賀町）や若杉山遺跡（阿南市水井町）などの調査に加えて、高速道路や堤防工事などに先立って、遺跡の大規模な発掘調査が行われ、新たな事実が次第に明らかとなってきました。

そこで、私に関心を持って調べている、この地域の縄文時代から弥生時代の代表的な遺跡について紹介していくことにします。

縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡では、加茂宮ノ前遺跡（阿南市加茂町）、深瀬遺跡（阿南市深瀬町）が注目されます。これまでに県南部で確認されていなかった、縄文時代前期末～中期前半頃の縄文土器や石器などが数多く出土しました。

加茂宮ノ前遺跡は那賀川右岸に、深瀬遺跡は那賀川左岸に、川をはさんで500mほどの距離に立地しています。ともに、縄文時代だけでなく、弥生時代や古代・中世の遺構、遺物も折重なって出土しました。

加茂宮ノ前遺跡からは、円形の配石遺構、炉跡、竪穴住居跡、大量の縄文土器や石器とともに、土偶や耳飾りなども出土しました。特に大量の石臼・石杵と辰砂原石が発見されたこと

が注目されます。辰砂の精製は、約4,000年前にほど近い縄文時代後期の前半から行われていたようです。

深瀬遺跡からは、縄文時代後期終わり頃の、内面に水銀朱の付着した浅鉢や辰砂原石が確認されており、加茂宮ノ前遺跡よりは少し遅れて辰砂の精製が行われるようになったことが分かります。

このほか、西宮遺跡（那賀郡那賀町鮎川）も注目されます。1991、1992（平成3、4）年に徳島県立博物館の遺物分布調査によって発見された遺跡で、石鏃（ヤジリ）などが大量に採集されました。2022（令和4）年からは、徳島大学考古学研究室の中村豊教授が発掘調査に取り組んでいます。縄文土器はほとんど発見されていませんでしたが、発掘により縄文時代早期と後期の土器などが出土しました。今後も続けられる発掘によって遺跡の時期や性格が次第に明らかになるでしょう。

- 1 古屋岩陰遺跡（那賀郡那賀町）
- 2 西宮遺跡（那賀郡那賀町鮎川）
- 3 若杉山辰砂採掘遺跡（阿南市水井町）
- 4 加茂宮ノ前遺跡（阿南市加茂町）
- 5 深瀬遺跡（阿南市深瀬町）

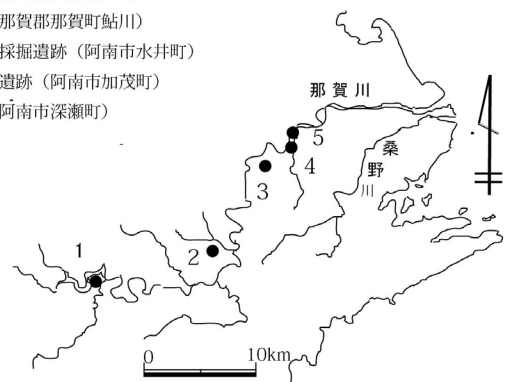


図1 那賀川流域の遺跡概略図

弥生時代の遺跡

弥生時代では若杉山遺跡と加茂宮ノ前遺跡を取り上げます。

若杉山遺跡は、水井町奥田^{おくだ}の若杉谷の山の斜面に立地しています。1955（昭和30）年、加茂谷村史編纂^{へんさん}のために、常松卓三さんによって調査されました。この時、採集された石臼や石杵と辰砂原石から、若杉山遺跡は辰砂の粉碎^{ふんさい}遺跡と位置付けられました。

1984～1987（昭和59～62）年には、岡山真知子さんを中心として徳島県博物館（徳島県立博物館の前身）によって、若杉山遺跡で発掘調査が行われました。300点を越える石臼、石杵と辰砂原石が出土したことによって、若杉山遺跡は、採掘された辰砂の加工場^{たたく}と確認され、石臼・石杵を使って辰砂原石を叩きつぶしてその後^{たた}にすりつぶす、辰砂の精製^{せいせいこうてい}工程が復元されました。

2015～2018（平成27～30）年には、徳島県教育委員会、徳島県立博物館と阿南市が協働して1980年代の調査の再検討や若杉山遺跡の発掘調査などが行われました。

その結果、若杉山遺跡の範囲は広がり、標高200mを越える地点で採掘跡が2か所確認できました。露天掘りの採掘場^{ろてん}（図2）と辰砂の鉱脈を追いかけるように掘り進んでいる採掘坑^{くわい}（図3）の埋め土から弥生時代終わり頃の土器が出土しました。これにより若杉山遺跡は採掘場所と加工場とを合わせもつ、弥生時代終わり頃の辰砂採掘遺跡ということが明らかとなったのです。

2019（令和元）年10月19日、若杉山遺跡は国の史跡に指定され、「若杉山辰砂採掘遺跡」と呼ばれるようになりました。

一方の加茂宮ノ前遺跡は、若杉山遺跡から5kmほど下流に立地しています。弥生時代の中期末から後期初頭、終末期の鍛冶炉^{かじろ}を2つ以上伴う竪穴住居跡^{たてあなじゆうきよあと}が見つかっています。また、これらの住居では、鍛冶を行っているだけでなく、石臼や石杵を使って辰砂の精製を行ない、サヌカイトを打ち欠いて石鏃なども作っていました。辰砂の精製については、弥生時

代だけで1,000点を越える石臼や石杵が出土しており、非常に大がかりに行われていたと考えられています。

若杉山辰砂採掘遺跡と加茂宮ノ前遺跡は、採掘～精製の工程をどのように役割分担していたのか、また、若杉山辰砂採掘遺跡以外にも辰砂の採掘地点があるのではないかとといったことなど解決すべき課題はいろいろあります。今後は、若杉山辰砂採掘遺跡から加茂宮ノ前遺跡までこの地域全体の辰砂採掘～精製に関する調査研究が必要になると思います。

おわりに

那賀川流域では縄文時代から弥生時代にかけての新たな発見が相次いでいますが、私は辰砂の採掘～精製についてとくに興味をひかれます。「縄文時代と弥生時代の辰砂の精製が連続するのではないかと妄想^{もうそう}しています。



図2 露天掘りの採掘場跡



図3 採掘坑跡

おふだをしらべよう

たかひら かずよ
高平 和代 (友の会会員)

私の嫁ぎ先は小規模農家ですが、几帳面な家系なのか古いものがたくさんありました。今は建て替えて面影もないのですが、過去帳、お位牌(図1)などが残っています。博物館でおふだをしらべることができるのなら、お位牌も調べることもできるのではないかと考えたことが、令和4年度の友の会行事「おふだをしらべよう」に参加しようと思ったきっかけでした。

実際に家のお位牌を調べてみると、一番古いもので、「元禄二己巳年(1689)十二月九日」の記録(図2)があり、過去帳と照らし合わせて、334年余りの歴史があることがわかりました。

そのほか行事に参加をして、おふだと一括りにしているものでも沢山の種類があることも知



図1 家に残っているお位牌



図2 一番古いお位牌
赤外線撮影をして文字
を確認しました。

りました。古くからの家で残されているこのようなおふだから、いろいろな所との繋がりがわかって面白かったです。阿波市土成町や勝浦町などで、紙に刷られている不動明王や千手観音、恵比寿様、和歌山の方から毎年巡って来てくださる方のおふだ等、見たことのないおふだが沢山あったこともわかりました。地域によって色々な神様・仏様をおまつりしていたことに改めて気が付いたように思います。

私たちの地域では当たり前の神社のお守り等が、貴重な歴史の記録だったのだと気が付きました。我が家でも建て替え前までは残しておいたお守りを、ネズミに荒らされていて処分したのが悔やまれます。現在、我が家の神棚には、中央に伊勢神宮、右には地元の三昧神社、左には他社でいただいたおふだをまつっています(図3)。それは毎年各所からいただいてまつっているものです。そして、古いおふだやお守りを地元の神社にて祓ってもらう神事を行っています。

最近になって、古い習慣や伝わっていたものが、世代が変わってすごい勢いで失われていくように思えます。私ができる範囲で、いま残っているもの、その土地の昔の話など、少しでも残していくお手伝いできればいいと思いました。



これから博物館友の会の行事を通して、いろいろな体験やお手伝いをしていきたいと思っています。

図3 家の神棚

友の会行事報告

あいずみちょう やかた
藍住町歴史散歩と藍の館見学

- 日時 6月24日(土) 13:00～16:00
- 場所 藍住町(藍の館、犬伏家住宅など)
- 担当 石尾和仁(友の会役員)
磯本宏紀(博物館学芸員)
丸山直生(友の会事務局)
- 参加者 10名

まず、リニューアルされた藍の館の展示を見学しました。奥村家住宅に移って藍染体験や屋内の見学後、藍の館北側にある文化三年と刻された台座をもつ地蔵尊やその傍らの道標、伊比良咩神社、諏訪神社を見学しました。

藍住インターチェンジ入口前の歩道橋脇にあるせきどめ大明神では、中富川の合戦で長宗我部元親の軍勢に攻められた三好勢の武将がここに潜んでいたという伝承を聞きました。

東光寺では町の天然記念物に指定されているイチヨウの大木を見上げた後に、龍池の高地蔵に向かいました。この高地蔵のある場所はカクジの浜とよばれる川湊のあった場所とされ、讃岐街道も通る交通の要衝でした。

最後に、北野神社摂社弁天社の太鼓橋や国指定重要文化財に指定された犬伏家住宅前を通過して藍の館に戻り、歴史散歩を堪能しました。(石尾和仁)

Vol.1c 参加者の声

● M and M さん

梅雨の晴れ間、とても充実した学びの体験でした。知らなかったこと、気づかなかったことがたくさんありました。実地での親しみやすい生解説のおかげで史蹟にこめられた人々の切実な願いや祈り、喜怒哀楽を身近に感じました。今につながる先人の忍耐力、知恵と工夫、先見の明と気概・・・・・・・・。

すべてをひっくるめて「徳島の藍」を誇りに思います。

● 吉岡啓子さん

あまり知らない土地を歩くことができました。地域の神社はありますが、今は少し寂しく感じました。学芸員とグループで廻れたのが良かったです。

● 吉岡 滋さん

文化の美を感じました。藍の色、人形浄瑠璃、阿波木偶、藍作りの道具、踏石、イチヨウの大樹、座敷又、諏訪神社、龍池の高地蔵、東光寺等、藍の故郷散策を楽しめました。

なお、吉野川下流地域には台座が1m以上の高地蔵が200体あるそうです。

● 形部仁悠さん

小学6年生の時に藍染め体験をしたことがあったけれど、もう一回してみると、前より上手くできて楽しかったです。また、史跡巡りをしてみて、藍住町にはいろいろな歴史があるんだなと思いました。その中でも、道標地蔵やせきどめ大明神は、こんな町中にあるのに、壊されずに残っていてすごいなと思いました。



奥村家住宅での藍染め体験

友の会行事報告

化石さがし

- 日時 7月16日(日) 13:30～15:30
 ○場所 博物館実習室・野外テラス
 ○担当 中村由香(友の会役員)
 小布施彰太(博物館学芸員)
 辻野泰之(博物館学芸員)
 丸山直生(友の会事務局)

- 参加者 5名

恐竜の化石が発見されたことで話題になっている、勝浦町の恐竜化石含有層(ボーンベッド)の岩石を使用しました。青空の下、岩石を叩くハンマーの音が鳴り響き、まるで勝浦町の発掘現場にいるような雰囲気でした。

期待していた脊椎動物の化石は出ませんが、貝や植物の化石を多数発見し、化石探しを楽しむことができました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●中村由香さん

今回の行事で、貝の化石を見つけることができました。勝浦町のボーンベッドの岩石は白亜紀前期のもので、その時の日本は、中国大陸と地続きであったと学芸員の先生からうかがいました。約1億年前に湖の中にいた貝が、今は自分の目の前にあると思うと、不思議に感じました。化石を見つけることも楽しいですが、見つけた貝や植物片から古代の世界を想像するワクワク感もあるなど実感しました。今回も楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。

●平尾順子さん

あわよくば「カメの甲羅」か「サメの歯」か「貝」なんかが見つかるかも・・・などと夢見て

ましたが、現実は厳しかったです。ハンマーで石をコツコツとたたき割ること2時間!!集中していたのであつという間でした。素人ゆえの成果なしですが、先生方がこの気の遠くなるような作業をずっとされて結果を出されていると思うと、本当にすごいことだと思いました。



全員で化石さがしに熱中しました

友の会行事報告

自分だけの博物館オリジナル
ファイルをつくろう

- 日時 8月19日(土) 13:30～16:00
 ○場所 博物館実習室
 ○担当 坂井なつ (友の会役員)
 とむらしゅんすけ (博物館学芸員)
 つじのやすゆき (博物館学芸員)
 しょうたけのりこ (博物館学芸員)
 まるやまなおき (友の会事務局)
 ○参加者 5名

はじめに、友の会役員でデザイナーの坂井さん親子に、ファイル作りのコツについて説明してもらいました。中学生の娘さんによる実演では、流れるような筆さばきに皆が見とれ、感嘆の声が漏れていました。

芸術の魔法にかけられ、「自分も、早くファイルを作りたい!」という気持ちになったところで、学芸員の解説を聞きながら常設展示室を見学し、お気に入りの展示物を写真に撮りました。その後、博物館3階の実習室に戻り、写真をトレースし、色を塗ってファイル作りを楽しみました。

最後に、それぞれのファイルに込めた思いを発表し合いました。どの作品にも個性と素敵な物語がありました。「ファイル作りにハマった」という声もありました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●高田美紀子さん

「オリジナルファイルをつくろう」に参加しました。常設展示室を見学し、描きたいものを写真に撮っていただき、その写真を半透明のペーパーファイルにはさみ、なぞりながら描きました(絵心の無さを痛感しつつ…)。

私が選んだのは、石が好きなこともあり、「化石ハチノスサンゴの一種」が入った石灰岩(県内の勝浦町産)です。博物館には多くの展示品がありますが、展示物を見て解説を読む普通の観覧と違い、お気に入りの一つを選び、じっくり見て描き写していると、展示物がより身近に感じ、愛着が湧くような感覚になりました。「これは私の推しの石っ!？」と心の中でつぶやいたりして、楽しかったです。

また、描くのに選んだ石が、「四国で最古の石」と教えていただき、ちょっとうれしかったです。もう少し実物に近づけるために、さらに描き足してみようと思います。



坂井さん親子からの説明



完成したオリジナルクリアファイルと一緒に

友の会行事報告

ひょうご
兵庫県の自然系博物館
日帰りバスツアー

- 日時 9月9日(土) 7:30～19:30
- 場所 兵庫県立人と自然の博物館
丹波竜の里 元気村かみくげ
丹波竜化石工房 ちーたんの館
- 担当 坂井なつ (友の会役員)
徳野壽治 (友の会役員)
辻野泰之 (博物館学芸員)
外村俊輔 (博物館学芸員)
丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 33名
兵庫県にある自然系博物館を貸切バスで巡りました。

兵庫県立人と自然の博物館と丹波竜化石工房 ちーたんの館で、2006年に丹波市の白亜紀の地層から発見された竜脚類恐竜タンバティタニス(通称:丹波竜)の実物化石や復元された全身骨格を見学しました。また、丹波竜の里 元気村かみくげでは、丹波竜の発掘現場を見学しました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●平尾 順子さん

久しぶりのバスツアー、とても楽しかったです。初めての場所はわくわくしますね。「ちーたんの館」は小さいながらも、建物の外観はおもしろいし、展示も良かったです。「徳島にもこんなのができたらいいのになあ」と思いました。

●森岡 諒さん

今回の友の会行事はとても良い経験になりました。僕は生徒ということもあり、社会科見学という面でも経験になりました。

現地にいた先生も説明が分かりやすく、有意義だったと思います。

●寺島幸生さん

同じ自然系博物館でも、規模や専門分野の異なる博物館を見学することができたおかげで、それぞれの博物館のよさ、特色や強みを知ることができました。兵庫県立人と自然の博物館では、人と自然の関わりを重視した展示により、身近な自然により愛着が持てるようになり、丹波竜の里の2館では、現場ならではの詳しい説明や展示から、多くのことを学びました。一方で、徳島県立博物館のよさとして、自然、人文、歴史など幅広い展示を一つの館で見学できる利点にも改めて気付きました。

●高平和代さん

兵庫県立人と自然の博物館の施設は広くて展示も理解しやすく、ゆっくり見やすい配慮がされており、学芸員の方の説明もすごく勉強になりました。

丹波竜のモニュメントや遊具等があり、近くには発掘現場もあって、直接見ることができ発掘時の苦労もうかがえ良かったです。

丹波竜化石工房 ちーたんの館では丹波竜発掘時の流れやいろいろ体験できる所もあり楽しかったです。

ちなみに丹波竜は、タンバティタニス・アミキティアエという新種です。

●住友りり子さん

今回の企画は、恐竜づくしの内容でした。参加後は、徳島県立博物館の恐竜発掘調査や展示について、ちょっとくわしくなったような気がします。

●桑内 隆さん

①イヌワシの巣の巨大さにビックリ!

②別館の鳥類標本コレクション(225点)、公開していた。素晴らしい!!

③化石の見学も面白かったし、勉強になりました

した。あの石の欠片^{かけら}で全体を復元するとは、感心するばかり。発掘とクリーニングも大変な根気作業^{こんき}で敬服です。

●石川 優^{いしかわ ゆう}さん

8月から家族会員になりました。初めて友の会行事に参加しましたが、とても楽しい一日を過ごす事ができました。丹波には一度行ってみたいと思っていたのですが、自家用車で行くには距離が・・・とっていました。今回バスツアーという形で、学芸員さんの解説を聞く事もでき、充実した内容にとっても満足でした。次の行事にもぜひ参加したいと思います。

●藤崎 暁^{ふじさき ひかる}さん

バスツアーに参加して思ったことは、丹波竜にはえんぴつのような歯があり、おとなが6人分はいるぐらいおとなが大きいことなどの特ちょうを知ることができました。その他にも世界最小の卵が自分の思っていたより小さかったです。最後帰ってきて図鑑を読んだら丹波竜のほうがフクイティタンより大きかったことにびっくりしました。楽しかった



丹波竜の発掘現場



丹波竜のモニュメント

(丹波竜の里 元気村かみくげ)



兵庫県立人と自然の博物館



丹波竜化石工房 ちーたんの館

アワーミュージアム 第73号

2024年1月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-fukyu@bunmori.tokushima.jp